

3 青少年の健全育成

1 青少年の健全育成

〈目標〉

青少年健全育成のネットワークを強化するとともに地域教育コミュニティの形成を図り、学校・家庭・地域が連携し、青少年の健全育成に取り組む。

〈取り組みの方向〉

学校・家庭・地域が連携し、青少年の健全育成活動を推進しているが、青少年の主体的な活動を促進し、地域ボランティア活動など地域との交流を図る。

〈平成 20 年度の主な取り組み〉

(1)地域ぐるみの育成活動

- ・ 青少年指導員会活動を支援するとともに、青少年育成啓発事業等を実施し、青少年の健全育成を進める。
- ・ 子どもの安全見守り活動や地域教育協議会活動の支援及び放課後子どもプランに基づく活動の支援を行い、教育コミュニティの形成、地域教育力の向上を図り、青少年の健全育成を進める。

(2)青少年活動の促進

- ・ 青少年の主体的な活動を促進するため、活動の場や機会に関する情報提供を行うとともに、地域ボランティア活動に取り組む青少年の育成を図る。
- ・ 「自分たちのイベントは自分たちで」の目標をかかげ、より多くの新成人の参画のもと実行委員会組織を強化し、成人式を実施する。

(3)家庭教育の推進

- ・『家庭教育推進指針』に基づき、元気子育てフォーラムの開催や家庭教育サポートチームの派遣等により、家庭教育力の向上を図る。

(4)留守家庭児童会事業

- ・保護者の就労等により、放課後の保護育成が必要な低学年児童の健全育成を図る。

〈平成 20 年度の取組実績〉

(1)地域ぐるみの育成活動

①青少年健全育成活動

青少年の健やかな成長を願い、地域の青少年健全育成を図るため、青少年指導員会と連携し、中学生の主張、子どもを守る市民集会、青少年育成市民啓発事業の推進を図った。

【参加者数】

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
中学生の主張応募者数	2,861 人	2,767 人	2,784 人
子どもを守る市民集会参加者数	910 人	856 人	886 人
青少年育成促進事業参加者数	2,973 人	3,186 人	2,345 人

②地域教育コミュニティ

地域教育コミュニティの再構築をめざし、その母体となる地域教育協議会を全中学校区に設置し、家庭・学校・地域が協働して様々な活動を行うとともに、平成 20 年 12 月からは学校支援地域本部事業を開始し、学校支援ボランティア活動の活性化を図った。

放課後子ども教室推進事業においては、放課後や週末に子どもの安全で安心な居場所を確保し、地域の世代間交流・異年齢交流の推進に努めた。また 9 月よりまなび舎事業・まなび舎キッズを始め、子どもの学力向上と学習習慣の定着を図ることを目的として、宿題や国語・算数の教科学習支援を実施した。

【参加者数】

		H20 年度	H19 年度	H18 年度
放課後子ども 教室参加者数	子ども	90,259 人	66,118 人	63,786 人
	大人	17,396 人	15,217 人	15,226 人
計		107,655 人	81,335 人	79,012 人
学校支援地域本部事業 ボランティア活動人数		33,439 人	—	—

③安心安全体制の充実

地域における子どもの安心安全体制を充実するために、警察 OB（スクールガード・リーダー）による指導を受けながら、地域パトロールカーや見守り隊活動を行うとともに、地域による防犯意識啓発のために子ども 110 番の家の旗・ステッカーを住居、企業、公共の乗り物等へ掲出の呼びかけをした。また、国のモデル事業「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を実施し、地域安全マップづくりに努めた。

【参加者数】

		H20 年度	H19 年度	H18 年度
見守り隊参加者数		4,744 人	4,501 人	3,230 人
地域パト ロールカー	稼働日数	2,483 日	2,430 日	2,338 日
	走行距離	30,958km	28,825km	25,984km

(2)青少年活動の促進

- ①ジュニアリーダーセミナーやジュニアサミット・ヤングリーダーセミナーを開催し、キャンプ等を通して仲間づくりをはじめ自主性、協調性を養うことにより青少年活動の促進を図った。

【参加者数】

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
ジュニアリーダーセミナー ⁽²²⁾	290 人	808 人	924 人
ジュニアサミット・ヤングリーダーセミナー ⁽²³⁾	108 人	137 人	87 人

- ②自らで創り上げることをテーマに一般公募による成人式実行委員会を組織し「自分たちの成人式」を企画し、運営進行を行うとともに成人としての自覚を促し、新たな一步を踏み出すために成人式を挙行了した。

【成人式参加者数】

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
対象者数	2,347 人	2,382 人	2,476 人
参加者数	1,456 人	1,583 人	1,687 人
参 加 率	62.0 %	66.5 %	68.1 %

(3)家庭教育の推進

- ①子育て中の保護者が、多くの人々との交わりの中で、親として育ち、共に考え、学びあうために元気子育てフォーラムを開催し、家庭教育に関する啓発活動に努めた。

- ②家庭の教育力の向上を図るため、家庭教育推進に向けた啓発と学習の機会の充実に取り組んだ。

- ③いじめや不登校、非行等の課題を抱え、子育てやしつけに悩みや不安を抱く家庭に対して、相談や家庭訪問を実施した。

【各事業等参加者数】

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
元気子育てフォーラム	1,038 人	1,279 人	1,040 人
赤ちゃんに絵本を贈ろう事業	1,793 人	1,778 人	1,810 人
家庭教育学級	409 人	442 人	427 人
家庭教育ふれあいセミナー	292 人	411 人	270 人

(4)留守家庭児童会事業

保護者が就労等により昼間家庭にいない児童の放課後及び学校の休業日の生活拠点として、異年齢集団の活動を通して、心身の健全な発達を促すことを目的に開設している。なお、平成16年度から段階的に取り組んできた非常勤職員体制化については、平成20年度当初に全児童会での非常勤化を図った。

【入会児童数】（各年度 5 月 1 日現在）

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
児童数（1～3 年生）	6,800 人	6,980 人	7,055 人
入 会 児 童 数	1,495 人	1,418 人	1,393 人

〈点検・評価〉

- ・ **地域ぐるみの育成活動**については、青少年指導員会と連携し、地域の青少年健全育成活動が図られた。
- ・ 放課後子ども教室など、地域ぐるみの育成活動を通して、子どもたちの安全で安心な居場所を確保することができた。
- ・ 学校支援ボランティアを公募することで、学校支援地域本部事業の本格的な実施に向けた活動基盤をつくることができた。
- ・ 地域における子どもの安心安全体制を図るため、地域パトロールカーや見守り隊を活用するとともに、スクールガード・リーダーによる具体的な指導により、効果を生むことができた。また、国のモデル事業「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を実施し、地域安全マップを作成し、安心安全体制の充実を図ることができた。
- ・ **家庭教育の推進**については、「家庭教育推進指針」に基づき、元気子育てフォーラムの開催による家庭教育啓発活動、家庭教育学級等の開催による学習機会の提供、サポートチームによる支援体制の整備等を図った。

- ・ **留守家庭児童会事業**については、放課後に適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全育成に努めることができた。また、非常勤職員体制化に伴い、課付け指導員（児童指導員）を4人から5人にし、事業の体制強化を図った。

2 教育センターの充実

〈目標〉

青少年に対して、様々な学習と活動の場を提供するなど自主的活動を支援し、青少年の健全育成を図る。

〈取り組みの方向〉

生きる力と豊かな感性を育む場所として各種事業を展開するとともに、青少年の自主的な活動を支援し、幼児から青少年までが気軽に利用できる拠点として、効果的・効率的な施設の管理運営を行う。

〈平成 20 年度の主な取り組み〉

(1) 青少年の居場所づくりへの支援

- ・ふれあい、仲間づくりのできる青少年の居場所としてセンター事業をさらに充実するとともに、青少年の様々な自主的活動を支援する。

(2) 教育センター事業の充実

- ・センター事業を魅力的な事業内容に発展させていくため、各種講座等の見直しを行う。

(3) 教育センターの効果的・効率的な管理運営

- ・教育センターについてより効果的・効率的に事業を推進するため、指定管理者制度を導入する。

〈平成 20 年度の取組実績〉

(1) 青少年の居場所づくりへの支援

- ①子どもたちの放課後や長期休業中における様々な遊びや活動を通じて、社会性や協調性を養い、自学・自習の生活習慣作りを支援するわくわくガリバーハウス事業の充実を図った。
- ②青年の活動の場として、音楽活動（青年ライブ）を継続して実施したことにより、活動団体が教育センター事業（てるかフェスタ）等で発表す

るなど、青年活動の支援に努めた。また、中学生などの居場所の一つとして、図書・自習室を開放するとともに、体育室を毎週土曜日に開放した。

- ③ 青少年が主体となって、実行委員会形式で開催しているバスケットボール大会は、運営方法や指導内容等に創意工夫をし、参加者や内容の充実が図れた。

(2)教育センター事業の充実

- ① 珠算・書道・茶道・英会話など、日常講座の充実に努めた。
- ② 簡単工作・子育て講座・お話し会（幼児と保護者）、天体観測（小・中学生と保護者）を開催した。
- ③ 夏休みの特別講座「キッズ電子工作」（次世代対応電池を使ってオルゴールをならそう）を開催した。

【使用状況】

	子ども デイサービス	講 座	行事・イベント	青年・図書	貸し館等	計
H20 年度	17,651 人	9,239 人	1,570 人	360 人	9,108 人	37,928 人
H19 年度	16,727 人	10,240 人	1,435 人	257 人	7,352 人	36,011 人
H18 年度	17,551 人	10,088 人	1,625 人	267 人	8,134 人	37,665 人

(3)教育センターの効果的・効率的な管理運営

- ① 受益者負担の適正化を図るため、平成 20 年 7 月 1 日以降の申込分より施設使用料金を徴収した。
- ② 施設の効果的・効率的な管理運営と市民サービスの向上を図るため、平成 21 年 4 月 1 日指定管理者制度導入に向け、準備を進めた。

〈点検・評価〉

- ・ **青少年の居場所づくりへの支援**については、使用者の年齢制限（25歳以下の青少年）を撤廃したことにより、児童から高齢者まで幅広い使用が見られた。
- ・ **教育センター事業の充実**については、親子で参加できる講座の充実を図るとともに、市内大学の講師や学生の協力をいただき、特別講座を実施した。
- ・ **教育センターの効果的・効率的な管理運営**については、受益者負担の適正化により、7月から施設使用料を徴収したが、事前に市民・使用者への周知に努め、大きな混乱や使用者の減少もなく、導入することができた。
- ・ 施設の効果的・効率的な運営と民間能力の活用、市民サービスの向上をめざし、指定管理者制度導入に向けた条例の改正、選定委員会設置などの事務を進めた。

3 エスポアールの充実

〈目標〉

幼児から高齢者までの世代間の交流を推進し、人と人のふれあいを深めるとともに、市民の自主学習・自主活動の場の提供や団体の育成を行う。

〈取り組みの方向〉

エスポアールの効果的・効率的な管理運営を進め、青少年成人センター及び児童センターの機能の充実を図る必要がある。また、地域全体で子育て支援や児童の健全育成を推進するため、支援サークルを育成するとともに、地域の人材を積極的に活用する。

〈平成 20 年度の主な取り組み〉

(1)子育て支援と青少年の健全育成

- ・支援サークルとの協働や地域の人材の活用により、地域ぐるみの子育て支援と児童の健全育成、世代間交流の取組を推進する。また、青少年向けの各種講座やセミナーを開催し、青少年の仲間づくりを促進する。

(2)エスポアールの効果的・効率的な管理運営

- ・エスポアールについてより効果的・効率的に事業を推進するため、指定管理者制度を導入する。

〈平成 20 年度の取組実績〉

(1)子育て支援と青少年の健全育成

- ①支援サークルとの協働により、児童が異年齢集団のなかで、各自興味を持った活動をすることで、仲間づくりや思いやりの心を育て、児童の健全育成を支援した。
- ②乳幼児または小学生とその保護者を対象に、親子あそびやトールペイント、ドーナツづくりなど親子が協力して創りあげる喜びを体験する中で、

親子のふれあいを深める機会を提供した。

③地域の高齢者などの協力を得て、伝承遊びや季節行事のお月見や豆まきなど、世代間交流を実施した。

④エスポアール使用団体が、それぞれの自学自主活動を発表する場を通して地域・世代を超えて協力し、フェットエスポアール(エスポアールまつり)を開催することにより世代間交流を図った。

【エスポアールの使用状況】

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
小学生以下	46,009 人	41,433 人	45,318 人
青少年	10,250 人	13,022 人	11,171 人
成人	104,785 人	105,291 人	107,877 人
合 計	161,044 人	159,746 人	164,366 人

【青少年・成人センター関連事業の受講者数】

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
事業数	3 事業 44 講座	3 事業 45 講座	3 事業 44 講座
延べ受講者数	9,012 人	10,114 人	10,875 人

※3 事業・・・パソコン教室・英会話教室・文化講座

【児童センター関連事業の受講者数】

	H20 年度	H19 年度	H18 年度
事業数	4 事業 28 講座	4 事業 24 講座	4 事業 25 講座
延べ受講者数	25,203 人	18,197 人	18,608 人

※4 事業・・・児童健全育成・親子ふれあい・世代間交流・子育て支援

【フェットエスポアール参加者数】

H20 年度	H19 年度	H18 年度
8,943 人	9,823 人	9,700 人

(2)エスポアールの効果的・効率的な管理運営

- ①受益者負担の適正化を図るため、平成 20 年 7 月 1 日以降の申込分より施設使用料金を徴収した。
- ②施設の効果的・効率的な管理運営と市民サービスの向上を図るため、平成 21 年 4 月 1 日指定管理者制度導入に向け、準備を進めた。
- ③各種委託契約を見直し、経費縮減に努めるとともに、老朽化した陶芸の電気窯購入、各種施設の維持修繕に努めた。

〈点検・評価〉

- ・ **子育て支援と青少年の健全育成**については、親子あそび事業や三世代交流事業、文化講座の開催など、支援サークルと協働しながらの子育て支援や児童から高齢者に至るまでの世代間交流を図った。
- ・ 国際化や情報化など、社会の変化や現在の課題に対応した講座として、LL 教室を使用したリスニング力やコミュニケーション能力向上を目指した講座やワード・エクセルをはじめ、デジタルカメラの活用方法などの講座を実施した。
- ・ **エスポアールの効果的・効率的な管理運営**については、受益者負担の適正化により 7 月から施設使用料を徴収したが、事前に市民・使用者への周知に努め、大きな混乱や使用者の減少もなく、導入することができた。
- ・ 施設の効果的・効率的な運営と民間能力の活用・市民サービスの向上を目指し、指定管理者制度導入に向けた条例の改正や、選定委員会設置などの事務を進めた。